

読書の家から



新刊案内

■あぶた読書の家

へ一般▽凶説戊辰戦争(木村幸比古)▽カメラがとらえた北海道の昭和(歴史読本編集部)▽日本人はなぜ中国人・韓国人とこれまでちがうのか(やっばり)こんなには違いない日本人が絶対理解できない中国人と韓国人(黄文雄)▽海と環境の図鑑(ジョン・ファードン)▽旧暦で楽しむ着物スタイル(さとうめぐみ)▽チャイナ・ギャップ(遠藤誉)▽甘い畏小説糖質制限食(摘木蓮)▽陽子の一日(南木佳士)▽大泉洋エッセイ(大泉洋)▽綱の

結び(相場英雄)▽日輪にあたらず(上田秀人)▽用心棒血戦記(鳥羽亮)▽天皇の刺客(澤田ふじ子)▽パン屋を襲う(村上春樹)▽黙示(真山仁)▽美しい家(新野剛志)

へ児童書▽からすのおかしやさん(からすのやおやさん)からすのそばやさん(からすのてんぷらやさん(かこさとし)▽らつこのうみ(えぞふくろうのみみ(手島圭三郎)▽遊びと仕事を100倍楽しむ本 全10巻(いかだ社)

■みずらみ読書の家

へ一般▽青い花(辺見庸)▽夢を売る男(百田尚樹)▽快拳(白石一文)▽友罪(葉丸岳)▽余

命1年のスタリオン(石田衣良)▽鬼と三日月(乾緑朗)▽百年桜(藤原緋沙子)▽クローズアップ(今野敏)▽来春まで(諸田玲子)▽明日香・幻想の殺人(西村京太郎)▽ココロの美容液(香山リカ)▽ホテル・ローヤル(桜木柴乃)▽徒然ノ冬(転び者(佐伯泰英)▽ミライノコードモ(谷川俊太郎)▽かしこいおかず(朝日新聞)▽50歳からちよつと心を休ませる本(加藤諦三)

へロータリー文庫▽虫と文明(ギルバート・ワルド(バウワー)▽宮沢賢治の地的世界(加藤ひるかず)▽光の百科辞典(谷田貝豊彦)▽温泉の百科辞典(阿岸祐幸)▽日本の絶滅古生物図鑑(宇都宮聰)▽ときめく鉱物図鑑(山溪カラー名鑑 日本の高山植物)▽日本の野草(日本の樹木)休日を楽しむシリーズ 全4(山と溪谷社編)▽縄文人に学ぶ(上田篤)

今月の1冊



「せんろはつづく」
竹下文子作
鈴木まもる絵

線路をつないで列車を通す楽しさに気づかされる絵本。リズムカルな文章と場面転換もとても心地良く繰り返し読んでも飽きませぬ。続編の「せんろはつづくまだつづく」「せんろはつづくどこまでつづく」もお読みください。



●開館時間
午前10時より午後4時20分まで
●8月休館日
15日・22日・29日・9月5日
(毎週木曜日・祝祭日休館)
あぶた読書の家 ☎76・2100
みずらみ読書の家 ☎75・4702

わたしのうた



短歌

【あぶた短歌会】 七月定例会

無理をせず自らに聞かせ歩みとめ

息をととのへのぼる坂道

山木 孝

友からは日を異にして采届き

落も竹の子も刺身はうまし

太田 智

蝶もいる草花群れ咲くはつ夏の

あしたの風にいのちさやけし

大西 芳子

熱き日の続くと予報流るれど

我住む街には涼風わたる

北島 加代

雀たち庭の主に守られて

のどかに餌を食べ土風呂たのしむ

元田 フジ子

俳句

【あぶた俳句会】 七月定例会

野の陰に姫百合咲けど人知れず

沖を背に夫婦でぐる芽の輪かな

小笠原 勇

竹さやぎ夏越の巫女や頬白し

夕騒や晴れて賑わう磯祭り

那須 伶子

向き定め鉄砲百合の静かなり

菅原 敏子

三瓶 修